

投資・財政計画

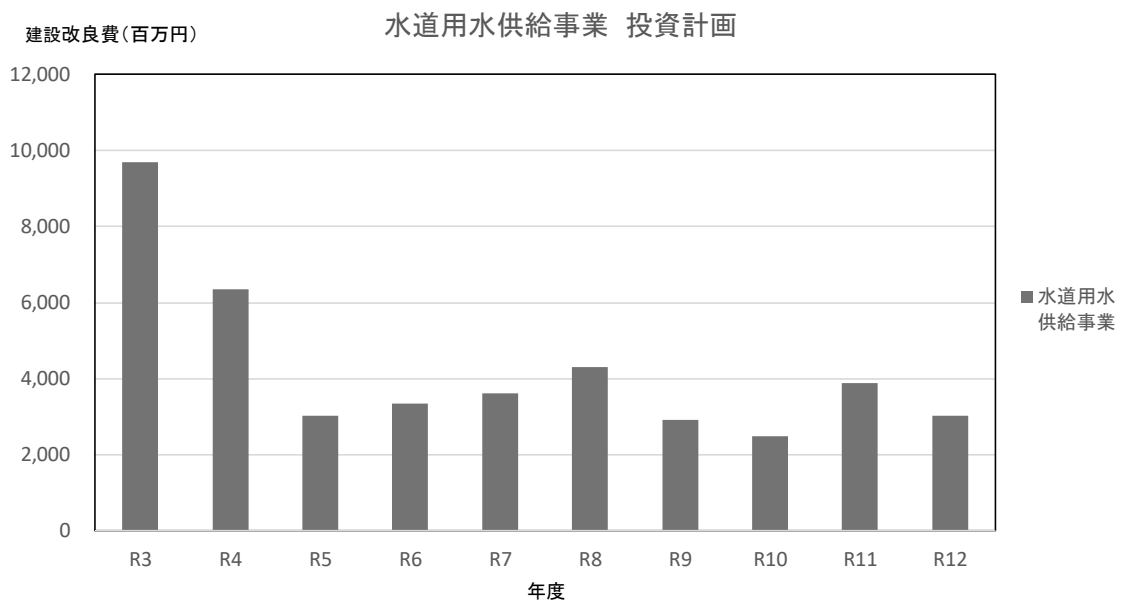
1. 基本的な考え方

- 自然災害や老朽化に対応するため中長期的視点により更新事業を行い、施設の強靱化を図ります。
- 効率的な経営および適正な料金設定により財政基盤を強化し、経営を安定的に継続します。

2. 水道用水供給事業

(1) 投資計画

「企業庁アセットマネジメント計画」により、着実な施設の更新および耐震化を進めることとしており、計画期間においては、10年間で約416億円の建設改良投資を行う予定です。



建設改良費 (百万円)

R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	合計
9,204	6,099	2,981	3,331	3,541	4,263	2,851	2,490	3,842	2,984	41,586

<主要事業>

- ・ 吉川浄水場耐震対策工事 (令和3～令和4年度) 8,386百万円
- ・ 浸水対策工事 (令和3～令和4年度) 211百万円

(2) 財政計画

① 水需要予測

令和3年4月から、基本水量を見直します。使用水量については、受水市町への水需要調査を基に試算します。

($\text{m}^3/\text{日}$)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
基本水量	179,090	179,090	179,090	179,090	179,090	179,090	179,090	179,090	179,090	179,090
使用水量	130,215	130,215	130,215	130,215	130,215	130,215	130,215	130,215	130,215	130,215

② 料金

現行の料金単価は下記のとおりです。収支計画においては現行料金で算定を行います。(※)

基本料金の料率	基本水量 1 m^3 につき月額	1,270 円
使用料金の料率	使用水量 1 m^3 につき	29 円 20 銭

※ 令和7年度までの料金は受水市町との協議の結果、改定を行わない予定です。

令和8年度から令和12年度までの料金は、令和7年度に受水市町と協議を行う予定です。

③ 財政にかかる目標とその考え方

持続可能な経営を推進するため、二つの目標を設定します。

1. 年間給水収益程度の内部留保資金を維持します。

世代間負担の公平と健全経営の維持の双方の観点から、一定程度の自己資金が必要です。

水道事業では、不測の事態に対応できる資金として、概ね年間給水収益程度を確保するのが一般的とされていることから、資本的収支の補填財源となる内部留保資金を年間給水収益程度維持することを目標とします。

2. 企業債残高の上限を150億円とします。

水道施設はその効果が長期にわたるため、世代間負担の公平を図る観点から建設改良事業への企業債の借入れが認められていますが、将来、過度な負担とならないように、企業債残高や毎年度の償還額等の適切な水準設定が必要となります。

配水能力が同規模の用水供給事業者の状況を考慮し、企業債残高の上限額を年間給水収益の概ね4倍程度となる150億円と設定します。

④ 収支計画

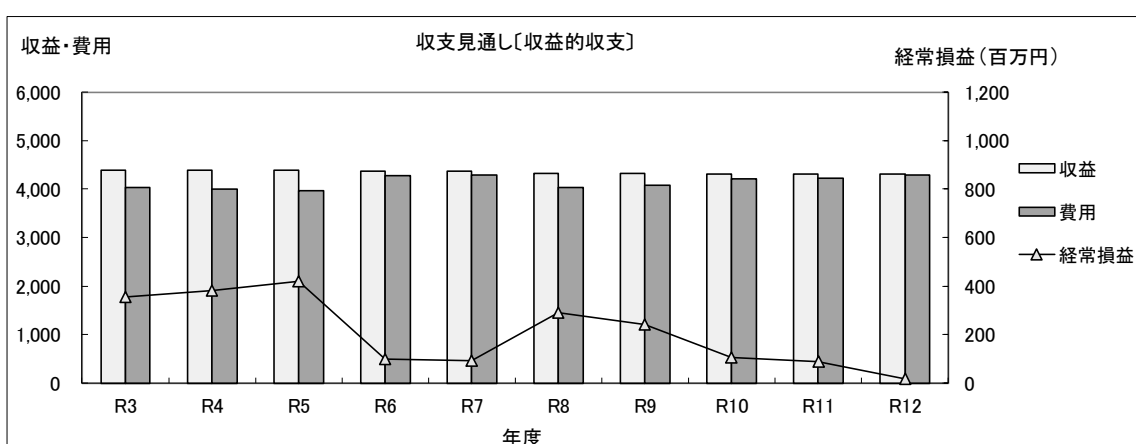
収益的収支については、水量を同量で推移すると見込んでいることから、収益は横ばいで推移します。吉川浄水場の耐震対策工事や老朽化した水道管の更新工事による減価償却費の増加により、減少傾向にあるものの純利益は確保できる見込みです。

資本的収支では、工事に伴う建設改良費の増加に対して、自己資金である内部留保資金を活用するとともに、財政目標である150億円を超えない範囲での企業債の借入れを予定しております。

収益的収支

(百万円)

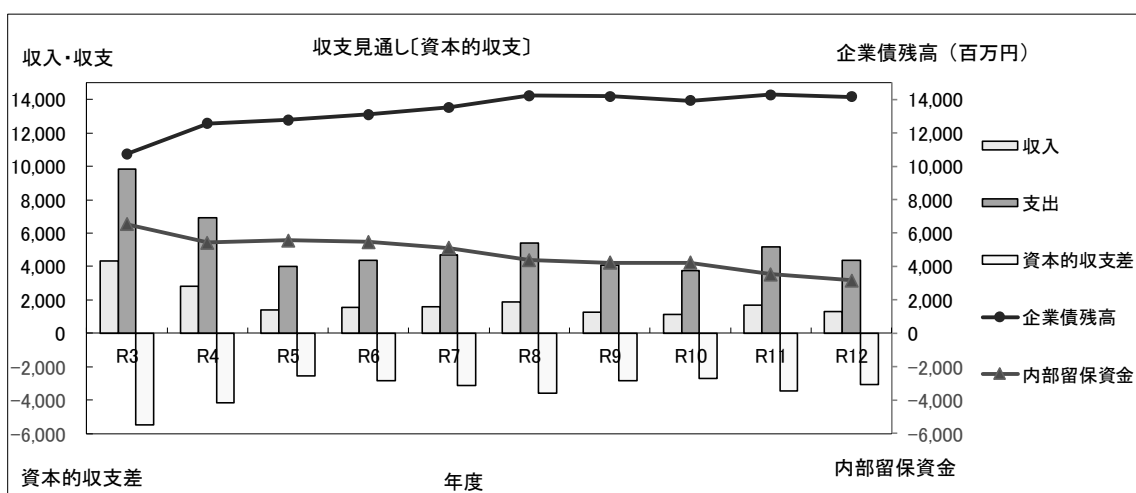
区分\年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
収 益	4,392	4,386	4,383	4,380	4,378	4,329	4,320	4,311	4,310	4,311
給水収益	4,117	4,117	4,121	4,117	4,117	4,117	4,121	4,117	4,117	4,117
長期前受金戻入	248	242	236	237	235	185	173	167	167	167
その他営業外収入	26	26	26	26	26	26	26	27	26	26
費 用	4,036	4,004	3,963	4,282	4,286	4,037	4,079	4,206	4,219	4,292
維持管理費	1,433	1,474	1,494	1,496	1,498	1,501	1,505	1,507	1,510	1,512
減価償却費	2,186	2,176	2,191	2,505	2,492	2,221	2,293	2,431	2,413	2,508
支払利息	114	124	123	120	117	116	116	112	108	104
その他	303	230	154	161	179	199	165	156	188	168
経常損益	356	382	420	98	92	292	241	105	91	19



資本的収支

(百万円)

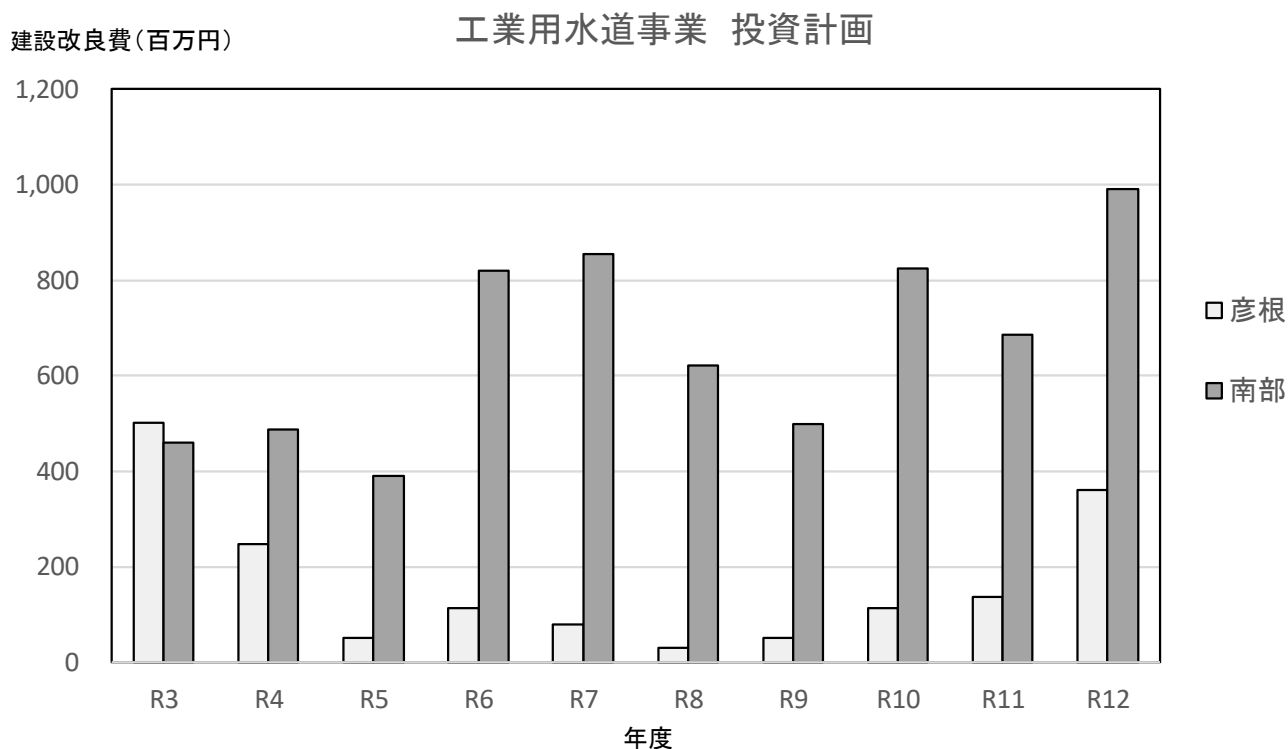
区分\年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
収 入	4,349	2,809	1,407	1,535	1,589	1,873	1,278	1,115	1,707	1,318
企業債	3,914	2,610	1,180	1,364	1,495	1,861	1,179	1,015	1,646	1,257
他会計出資金	206	80	0	0	0	0	0	0	0	0
補助金	229	119	227	171	94	12	99	100	61	61
支 出	9,814	6,935	3,977	4,375	4,684	5,433	4,115	3,783	5,160	4,390
建設改良費	9,204	6,099	2,981	3,331	3,541	4,263	2,851	2,490	3,842	2,984
企業債償還金	580	803	972	1,022	1,089	1,145	1,239	1,268	1,293	1,381
その他	30	33	24	22	54	25	25	25	25	25
資本的収支差	△ 5,465	△ 4,126	△ 2,570	△ 2,840	△ 3,095	△ 3,560	△ 2,837	△ 2,668	△ 3,453	△ 3,072
企業債残高	10,754	12,561	12,769	13,112	13,517	14,233	14,172	13,919	14,273	14,148
内部留保資金	6,523	5,412	5,559	5,466	5,126	4,381	4,232	4,216	3,543	3,171



3. 工業用水道事業

(1) 投資計画

「企業庁アセットマネジメント計画」により、着実な施設や設備の更新を進めることとしており、計画期間においては、10年間で彦根が約17億円、南部が約66億円、工業用水事業全体で約83億円の建設改良投資を行う予定です。



建設改良費 (百万円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	合計
彦根	502	247	51	115	80	31	51	114	137	361	1,689
南部	461	489	392	821	855	622	499	824	687	992	6,642
合計	963	736	443	936	935	653	550	938	824	1,353	8,331

<主要事業>

(彦根)

- ・浸水対策工事 (令和4～令和5年度) 65百万円
- ・管路更新工事 (令和3～令和12年度) 582百万円

(南部)

- ・菩提寺加圧ポンプ場非常用発電設備更新工事
(令和5～令和6年度) 150百万円
- ・管路更新工事 (令和3～令和12年度) 2,792百万円

(2) 財政計画

① 水需要予測

基本水量は、平成 30 年 4 月に受水企業の意向を踏まえ、見直しを実施しましたので、現状で推移すると見込んでいます。

また、南部では、竜王工業団地での新規受水企業分として令和 5 年度より 500 m³の増量を見込んでいます。

使用水量については、受水企業へのアンケート結果を踏まえ横ばいで推移すると見込んでいます。

(m³/日)

区分/年度		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
彦根	基本水量	24,570	24,570	24,570	24,570	24,570	24,570	24,570	24,570	24,570	24,570
	使用水量	17,509	17,509	17,509	17,509	17,509	17,509	17,509	17,509	17,509	17,509
南部	基本水量	54,384	54,384	54,884	54,884	54,884	54,884	54,884	54,884	54,884	54,884
	使用水量	32,897	32,897	33,200	33,200	33,200	33,200	33,200	33,200	33,200	33,200
合計	基本水量	78,954	78,954	79,454	79,454	79,454	79,454	79,454	79,454	79,454	79,454
	使用水量	50,406	50,406	50,709	50,709	50,709	50,709	50,709	50,709	50,709	50,709

② 料金

現行の料金単価は下記のとおりです。収支計画においては現行料金で算定を行います。(※)

彦根	基本料金の料率	基本水量 1 m ³ につき	14 円
	使用料金の料率	使用水量 1 m ³ につき	3 円
南部	基本料金の料率	基本水量 1 m ³ につき	34 円 70 銭
	使用料金の料率	使用水量 1 m ³ につき	8 円

※ 令和 5 年度から令和 9 年度までの料金については令和 4 年度に、令和 10 年度から令和 14 年度までの料金については令和 9 年度に、受水企業と協議を行う予定です。

③ 財政にかかる目標とその考え方

持続可能な経営を推進するため、二つの目標を設定します。

1. 年間給水収益程度の内部留保資金を維持します。

健全経営の維持の観点から、一定程度の自己資金が必要です。水道事業では、不測の事態に対応できる資金として、概ね年間給水収益程度を確保するのが一般的とされていることから、資本的収支の補填財源となる内部留保資金を年間給水収益程度維持することを目標とします。

2. 企業債の借入を抑制します。

工業用水道事業は、受水企業に永続的に給水を行うことを前提としているため、企業債借入による支払利息の増加は受水企業の負担につながることから、今後の更新事業実施にあたっては、内部留保資金を積極的に活用して、企業債の借入を抑えます。

④ 収支計画

(彦根)

収益的収支については、管路更新工事等による減価償却費の増加により、令和9年度以降、経常損益は赤字となる見込みです。

資本的収支では、工事に伴う建設改良費の増加に対して、自己資金である内部留保資金の活用を行い、新たな企業債の借入は予定していません。

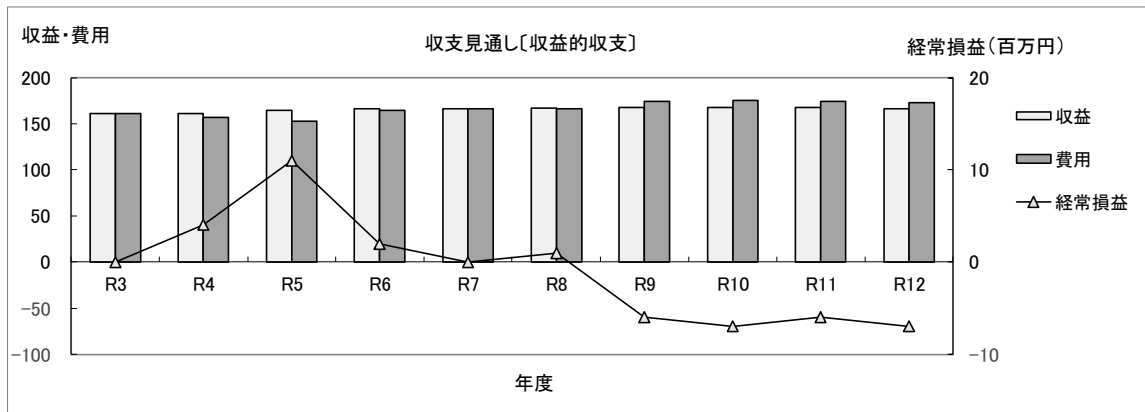
経常損益は赤字に転じるものの、計画最終年度である令和12年度においても内部留保資金は目標である年間給水収益を維持できる見込みです。

しかし、赤字が継続するかぎり内部留保資金は減少し続け、いずれ年間給水収益程度を維持できなくなるため料金改定時において、受水企業と「適正な料金」について協議を行います。

収益の収支

(百万円)

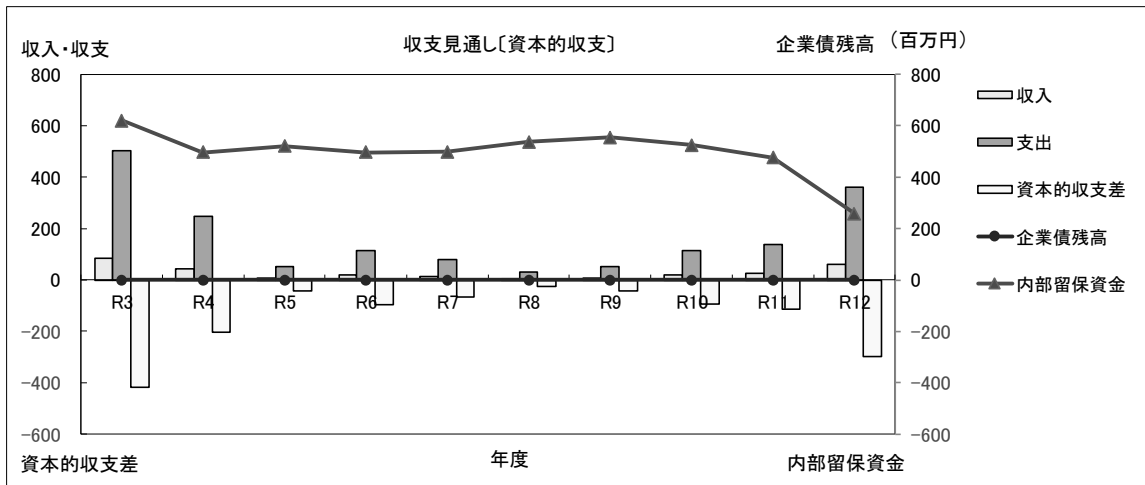
区分\年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
収 益	161	161	164	166	166	167	168	168	168	166
給水収益	145	145	145	145	145	145	145	145	145	145
長期前受金戻入	14	14	17	19	19	20	21	21	21	19
その他営業外収入	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
費 用	161	157	153	164	166	166	174	175	174	173
維持管理費	84	84	85	85	85	85	85	85	85	85
減価償却費	75	69	67	77	80	81	88	88	87	83
支払利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	4	1	2	1	0	1	2	2	5
経常損益	0	4	11	2	0	1	△ 6	△ 7	△ 6	△ 7



資本の収支

(百万円)

区分\年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
収 入	86	43	9	20	14	5	9	20	24	62
企業債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計出資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補助金	86	43	9	20	14	5	9	20	24	62
支 出	502	247	51	115	80	31	51	114	137	361
建設改良費	502	247	51	115	80	31	51	114	137	361
企業債償還金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資本的収支差	△ 416	△ 204	△ 42	△ 95	△ 66	△ 26	△ 42	△ 94	△ 113	△ 299
企業債残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内部留保資金	620	496	521	496	498	537	555	524	476	258



(南部)

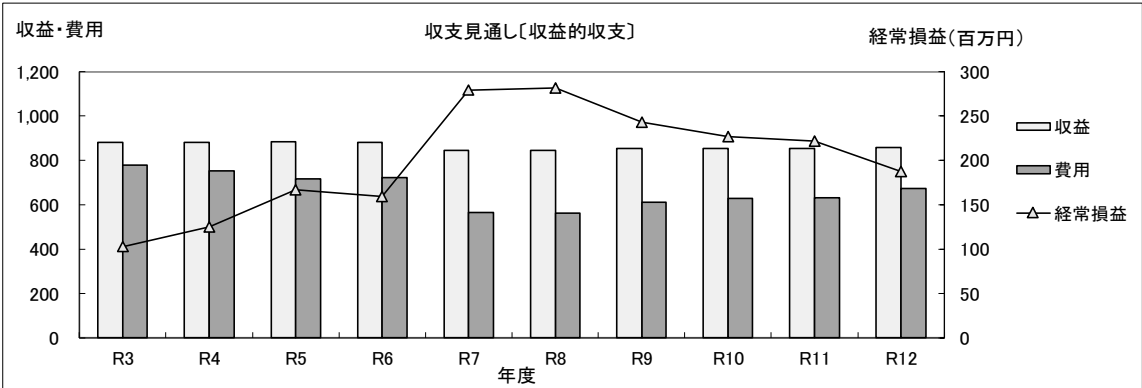
収益的収支については、大規模施設の減価償却が令和7年度に終了するため、純利益は増額しますが、その後新たな管路更新工事等による減価償却費が増加するため、純利益の減少傾向を見込んでいます。

資本的収支では、工事に伴う建設改良費の増加に対して、自己資金である内部留保資金の活用を行い、新たな企業債の借入れは予定していません。

収益的収支

(百万円)

区分\年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
収 益	882	879	884	881	844	843	853	853	854	859
給水収益	784	785	794	792	792	792	794	792	792	792
長期前受金戻入	88	84	80	79	42	41	49	51	52	57
その他営業外収入	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
費 用	779	754	717	722	565	561	610	626	632	672
維持管理費	317	317	319	319	319	320	321	321	321	322
減価償却費	445	419	385	376	218	220	273	279	289	318
支払利息	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0
その他	15	16	12	26	27	20	16	26	22	32
経常損益	103	125	167	159	279	282	243	227	222	187



資本的収支

(百万円)

区分\年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
収 入	79	84	67	141	147	107	86	142	118	171
企業債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計出資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補助金	79	84	67	141	147	107	86	142	118	171
支 出	482	511	414	843	878	638	516	834	693	996
建設改良費	461	489	392	821	855	622	499	824	687	992
企業債償還金	20	21	21	21	22	15	16	9	5	3
その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
資本的収支差	△ 403	△ 427	△ 347	△ 702	△ 731	△ 531	△ 430	△ 692	△ 575	△ 825
企業債残高	132	112	91	69	48	32	17	8	3	0
内部留保資金	4,957	5,064	5,272	5,105	5,041	5,041	5,093	4,928	4,879	4,576

